

われませんが、私たちがこの国の政治を「危機的」ととらえる場合には、こうした大きな分岐点としてとらえる必要があるでしょう。

安倍政権に変わる、新しい政権のビジョンが重要

衆議院選挙がいつ行われるかはわかりませんが、私たちは「市民と野党の共闘」を発展させて対抗する他にありません。くわえて大切なのは、安倍政権にかわる新しい政治・政権のビジョンを示していくことです。

安倍政権の主要政策に対する世論の評価は、どの問題でも低いものになっています。今回のカジノ法についても同じです。それにもかかわらず安倍政権の支持率は下がっていません。そこには、安倍政権にとってかわる政権が見えないという、多くの市民の苦悩があらわれています。政策的に支持できない政権を、消極的に「支持する」と言わざるを得ない。これはとてもつらいことです。国民の中に

絶望やあきらめが広がるのも無理はありません。

その鬱陶しい空を晴れさせるには、安倍政権・安倍政治にとってかわる新しい政治・政権の構想が必要です。積極的な新しいビジョンの提示が必要で

野党の政権共闘をめぐることは、綱領が違うからできないとする政党がありますが、これは実に不思議な主張です。主義・主張の異なるものが、一致点を探り、その範囲で力をあわせていく道を進むのが共闘です。そのことをとりわけ民進党に強く求めていくことが必要です。

革新懇の大きな課題、

地方政治では、共産党をのぞく「オール与党」がめざらしくありません。兵庫県もそうした地方のひとつです。

兵庫は複数議員が当選する選挙区だったので、一六年の参院選では候補者調整を行っていません。次の衆議院選挙が初めてとなるわけで、その点では、これまでにない創造的な運動が必要です。

兵庫革新懇は、この点でより大きな役割を自発的に果たしていくことが求められています。たくさんの方々の団体から成り立っている革新懇は、ともすればそれら団体相互の交流や運動の調整という内向きの活動を主にしがちです。いま求め

られているのは、革新懇に集まった団体の総体が、広範な市民に対してどのような取り組みを展開していくかという外向きの活動を主にしていくことです。運動をすすめる側の意識をその点で大きく変えていく必要があると思います。

兵庫県知事選挙の展望

一七年夏に行われる県知事選挙ですが、「憲法県政の会」としては三度目のものとなります。

二〇〇九年には四九万、二〇一三年には六二万をこえるご支持をいただきましたが、今回はいよいよ一〇〇万を超えて、県政の転換を実現していくための選挙となります。前回の一三年選挙時に比べて、政治に参加しようとする市民の意識は、はるかに積極

的なものとなっています。

たくさんの方々の新しい団体・ネットワークも生まれました。その市民の意識の新たな高まりに見合った運動を探求せねばなりません。

前回までと違って、今回は選挙の八ヶ月前に候補者を発表することができました。それによって、本番までにいるような新しい挑戦を行うことが可能になっています。

候補者に津川知久さん

立候補を表明された津川知

久さんは、労働運動や平和運動の分野で多くの経験をもつため、さまざまな市民運動家です。あわせて津川さんは広範な市民、市民運動とのつながりを自身で持ちの方でもありますから、その力も大いに発揮していただきたいと思っています。

二〇一七年は、革新懇であれ「憲法県政の会」であれ、従来の取り組みの延長にとどまらない創造力が問われる年になると思います。大いに知恵を発揮していきましょう。

(文責 事務局)



トランプ+カジノ
段 重喜